

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

6月8日（土） 迷いからの脱出—死生学へのいざない
菅原伸郎 在家仏教協会理事長

6月22日（土） 迷いからの脱出—無所得の救い
竹村牧男 先生 東洋大学学長

9月14日（土） 迷いからの脱出—問いの中に答えあり
武田定光 先生 真宗大谷派因速寺住職

9月28日（土） 迷いからの脱出
佐藤 研 先生 立教大学名誉教授

10月12日（土） 迷いからの脱出—私の愚を守る
大童法慧 先生 一般社団法人悲しみを佛の智慧に学ぶ会代表理事

10月26日（土） 迷いからの脱出
田上太秀 先生 駒澤大学名誉教授

11月9日（土） 迷いからの脱出
調整中

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

6月21日（金） 聖時間を持とう
真城義麿 先生 真宗大谷派善照寺住職

9月20日（金） 維摩経を読む
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

11月15日（金）
山田法胤 先生 法相宗大本山薬師寺長老

いのち尊し

ドラッカーを読み直す

常包芳樹

(在家仏教協会会員)

第25号

いのち尊し

令和元年
6月1日

公益社団法人
在家仏教協会

〒101-0062

東京都千代田区
神田駿河台3-3
五明館ビル202号

TEL
03-6684-6692

FAX
03-6684-6709

働き方を巡って対応策が講じられて... だが、そんな中で、上司・部下の間であって人間関係を処理する「管理者」の負担が重くなっているのも気がかりだ。

の失敗は仕事の停滞だけでなく、パワーハラスメントや心の病に繋がる可能性もある。こんな職場状況を目にして、最近では管理者への昇格を望まない社員も出てきているようだ。

*

基本である他者への理解は簡単なことではない。命令を受けつつ自分も命令をくだす、という二重の人間関係をこなす管理者は、身を裂かれる立場にある。

コミュニケーションのあり方がますます難しくなる中で、経営学の泰斗、ピーター・ドラッカー博士（以下博士）の著書『マネジメント—務め・責任・実践』（日経BP社、二〇〇八年）を久々に開いた。博士は半世紀前に、管理者のコミュニケーションについて

*

仏教の禅僧など宗教の達人がむかし問いを立てたがここに重要な意味がある」と始める。

知覚されてはじめてコミュニケーションになることをさらに強調する。以下「古代から知覚に関する議論は続いており、その能力には複雑な要素が絡み、知覚の不一致がしばしば起こる。知覚する側は期待に沿って理解する傾向が強いこと、それに反する情報は聞く耳をもたず拒否され、場合によっては逆に期待どおりと誤解する可能性もある」と述べる。

育児と仕事の両立が課題の人、定年年齢引き上げの中で老後生活と仕事のバランスを考える人、組織と一定の距離を保つ非正規社員、育った文化背景を異にする外国人など、働く価値観を異にするメンバーが職場に多く加わってきた。その中で円滑なコミュニケーションを求められる管理者の負担は増大している。コミュニケーション

「情報」の氾濫を受けて緊急性の高い、よりてごわい課題が新たに生まれる」（同書三八章）と予言していた。論及にあたり博士は「（誰もいない森の中で木が倒れたときに、音は存在するの否か）」

このように人間の知覚の特徴として、自分の期待を優先するといふ博士の見方は、煩惱に覆われ、自我への執着から脱しきれない凡夫への気づきを促す仏教教理と通底しているようだ。問題解決に向けた具体論に入ると、博士は『目標』について相互に語り合う管理の『実践』を推奨する。平凡なようだが、この結論はその理由が興味深い。『話し合いを通じて、上司と部下が同じ現実を前に、異なる視点

からこれを見ていることへの気づきポイント。立場の違いによる距離は埋められなくても、その違いを納得していくことでコミュニケーションが成立する」とする。

その他にも参考となる考え方が示されているが、基本としておさえたいのは、人間のコミュニケーションには、歴史を通じて不変的な要素が作用してきたと洞察しているところである。その視点の背景には、キリスト教信仰と人間の生き方について深く思索した哲学者キルケゴールからの影響があるようだ。（ドラッカー著『すでに起こった未来』所収の「もう一人のキルケゴール」、ダイヤモンド社、一九九四年刊）

環境世界は大きく変化しており、IT技術の更なる進化、人工知能の活用など、この傾向は加速されるだろう。しかし、とらえどころのない面も含んだ心が、人間のコミュニケーションの基本であることは今後も変わりはない。人間関係を考察する博士の言葉を踏まえると、人間の知覚能力の謎、限界を見つめて続けてきた伝統宗教の視点を忘れてはならない、と改めて感じた。

在家仏教通信

輪読会「鈴木大拙を読む」の開催が決まりました

在家仏教協会は六月から、東京・駿河台の事務所です。輪読会・鈴木大拙を読む」を始めます。当面は毎月一回、第三水曜日の午前十一時からの予定です。十人ほどがテールを囲み、名著を時間をたつぷりかけて読み進みます。まず、あらかじめ引き受けていた会員が一時間ほどかけて解釈と感想を報告し、さらに一時間ほど、質問したり意見を述べ合ったりします。参加希望の方は別項の案内をご覧のうえ、六月上旬までにお申し込みください。

*

第一シリーズは鈴木大拙著『日本的靈性』を取り上げます。太平洋戦争の敗色が濃くなったころ、日本と仏教の将来を憂いた著者が、いわば遺言のような筆致で発表した一般向けの解説書です。やや古風な漢語や熟語も登場しますが、大拙先生の著作の中ではやさしい部類に入ります。冒頭の「緒言」では、聞き慣れ

ない「日本的靈性」という言葉が説明されています。さらに禅と浄土などの思想が簡単に解説されています。第一回の集まりに参加される方は、この二十ページ弱をあらかじめお読みになっておいてくださるようお願いいたします。本論の第一篇では、まず仏教渡来以前の精神風土について、やや皮肉っぽく述べられます。戦時中の「大和魂」などをからかっているのですが、厳しい言論統制の行われていた時代によくぞ書かれたと思わざるをえません。第二篇は、仏教の渡来から鎌倉仏教へ脱皮する過程が描かれています。古代人の単純さから内面が深化されていき、現実をいったん否定する禅の思想や親鸞の世界が紹介されます。第三篇は「法然上人と念仏称名」と題して浄土思想の発展が語られます。第四篇は「妙好人」と題されて、赤尾道宗や浅原才市ら、民衆の真宗思想が語られます。そして第五篇「金剛經の禪」では禅思想の極意が語られるのですが、ここは少し難しいかもしれません。テキストには『日本的靈性 完全版』（角川ソフィア文庫、二〇一〇年刊）をご用意ください。末

通常総会を開催します

在家仏教協会では第74回通常総会を6月25日（火）午後3時より中野区の中野サンプラザ7階研修室7にて開催します。総会では、平成30年度の事業報告、収支決算、令和元年度の事業計画、収支予算、理事・監事の任期満了に伴う選任などについてご審議いただきます。会員の皆様は是非ご出席ください。6月上旬に「招集ご通知」を郵送します。

「大法輪7月号」へ在家仏教講演会の講演録が掲載されました

生きるとは労働である 田上太秀 (駒澤大学名誉教授)

宗教のテーマは生と死 リレー講演の共通のテーマは「宗教と労働」でありますが、宗教と労働との関わりを仏教の教えの中で考えてみようと思えます。仏教では労働をどのように考えているのかを論じると、たいそう興味深いことがあります。大ざっ

木文美士氏の注釈が載っているからです。もちろん、これまで親しまれてきた大東出版社版『日本的靈性』、岩波文庫版『日本的靈性』、岩波書店版『鈴木大拙全集』第八巻をお持ちになっても構いません。ただし、岩波版の二冊では、最終章の「金剛經の禪」が筆者自身によつて省かれています。

大拙先生は、まず臨済禅を学んだうえで浄土の世界にも分け入った在家者です。私たちの在家仏教協会もこれまでの講演会活動を通じて、似たような世界に親しんできたように思います。その辺りをこいつしよにさらに深めて参りたい、会員同士の交流の場を作りたい、そして先行きのやや苦しい協会に新しい風を入れたい、という願いから試みる輪読会です。ご参加をお待ちしています。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならないと信じていること。
三、 呪術らしきものは一切排除すること。
四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

ばにみると、釈尊の時代には仏教の修行者は生産活動をしていませんでしたので、いわゆる労働生活はなかったと言えます。というのは出家者は托鉢生活をしたからです。
協会ホームページに講演会動画をアップしました

労働の場と個の確立 本多弘之先生 (親鸞仏教センター所長)
※ID .. 各自会員番号
パスワード: zaikubukkyo

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演会活動を行っておりますが、その多くは寄附金によつて賄われております。講演会の存続のために温かいご支援をお願い致します。

協会への寄附金は税制優遇が受けられます。個人様からの寄附と法人様からの寄附について、事例を上げてご案内いたします。
★所得税
所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)ー2,000円」を控除することができます。

*

開催日時: 第1回は6月19日(水) 11時~13時。毎月第3水曜日、続いて年内は7月17日、8月は休会、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日。

場所: 協会事務所 (東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 五明館ビル202号、JR御茶ノ水駅より徒歩5分)
テキスト: 鈴木大拙著『日本的靈性 完全版』(角川ソフィア文庫)
募集人数: 10名(5月23日現在で7名の方が応募されました)
参加費: 500円/回

申し込み先: 在家仏教協会事務局
電話: FAX・メール (kamimura@zaikubukkyo.com) にてお申込み下さい。

原稿をお待ちしています

◇随想「仏教と私」(八百字以内)
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
◇読者からの手紙(八百字以内)
講演会(講演録)の感想などをお書きください。
◇コラム「この一冊」(八百字以内)
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールは kamimura@zaikubukkyo.com まで。